

令和 2 年 5 月 2 日現在

機関番号：34416

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13740

研究課題名（和文）制度の質が経済発展に与える効果に関する研究

研究課題名（英文）The Effects of Institutional Quality on Economic Development

研究代表者

岡田 啓介（OKADA, Keisuke）

関西大学・経済学部・准教授

研究者番号：70633064

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：経済発展における制度的要因の重要性は広く知られている。本研究課題では、政治体制と多国間協力の枠組みの役割に着目し、主に次の3つの研究テーマに取り組んだ。（1）政治体制が健康水準（乳幼児死亡率、幼児死亡率、平均寿命）にどのような影響を及ぼすのかについて実証的に検証した。（2）天然資源を豊富に有する国は、その資源を利用して経済発展に成功するように一見思われるが、現実には経済が停滞することがしばしば観察される。この現象は「資源の呪い」として知られている。資源の呪いを軽減する国際的な取り組みの役割を理論的・実証的に検証した。（3）貿易自由化が生産性にどのような効果を及ぼすのかについて検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

経済発展における制度的要因の重要性は近年、注目されている。その一方で、制度とは慣習や法、政治体制、社会への信頼など多岐にわたっており、理論的・実証的に検証すべき課題は依然として多い。本研究課題では、制度の質と経済発展の関係に関して、政治体制が健康水準に与える影響や「資源の呪い」を軽減する国際的な枠組みの役割について研究を進めてきた。これらの研究を通して、経済発展における制度の多面的な役割を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：It is well-known that institutional quality has an important role in economic development. We have focused on the roles of political regimes and international initiatives and have mainly investigated the following three research topics. First, we have empirically studied how political regimes affect health conditions such as infant mortality, child mortality, and life expectancy. Second, resource-rich countries have seemed to achieve economic prosperity, but in reality, many of them have not achieved. This paradoxical phenomenon is known as the “resource curse.” We have theoretically and empirically researched the roles of international initiatives to alleviate the resource curse. Finally, we have investigated the effects of trade liberalization on productivity.

研究分野：経済学

キーワード：経済発展 制度 政治体制 汚職

1. 研究開始当初の背景

経済発展における制度的要因の重要性は多くの経済学者の指摘するところである。慣習や法、政治体制、社会への信頼といった制度的要因は、市場の役割を補完するものとして機能しており、制度の質の改善が円滑な経済活動、ひいては経済成長につながると考えられている。一方で、制度の質は多岐にわたっており、その役割について検討すべき課題が依然として多い。本研究課題では、制度の中でも政治体制と多国間協力の枠組みの役割に着目し、それらと経済発展の間にはどのような関係が存在するのかについて研究を進めた。

2. 研究の目的

上記の研究状況を背景として、本研究課題では、具体的に次の3つの研究テーマに取り組んだ。(1)政治体制が健康水準(乳幼児死亡率、幼児死亡率、平均寿命)にどのような影響を及ぼすのかについて実証的に検証した。(2)天然資源を豊富に有する国は、その資源を利用して経済発展に成功するようは一見思われるが、現実には経済が停滞することがしばしば観察され、この現象は「資源の呪い」として知られている。資源の呪いを軽減する国際的な枠組みや政治体制の役割を理論的・実証的に検証した。(3)貿易自由化が生産性にどのような効果を及ぼすのかについて検証した。

(1) 政治体制が健康水準に与える影響

貧困層の生活の質は政治体制に依存するところが大きい。民主主義的な政治体制の下では、政府が健康や教育などに関する支出を増加させ、貧困層の生活の質が改善する可能性がある。一方で、開発途上国では汚職などの影響により政府支出の増加が必ずしも貧困層の生活の質の改善につながらないことも指摘されている。この研究では、政治体制が健康水準(乳幼児死亡率、幼児死亡率、平均寿命)にどのような効果を及ぼすのかについて検証した。

(2) 資源の呪いに関する研究

天然資源を豊富に有する国は、その資源を利用して経済発展に成功するようは一見思われるが、現実には経済が停滞することがしばしば観察される。この現象は「資源の呪い」として知られている。これに関して「採取産業透明性イニシアティブ(Extractive Industries Transparency Initiative: EITI)」の経済的効果と大規模油田の発見が政府の行動に与える効果について研究を行った。については、天然資源に関わる資金は不透明であることが多く、資源の呪いの原因の一つとして汚職の存在が指摘されている。この問題に対する国際的な対策がEITIである。については、天然資源の中でも石油資源は特に価値が高く、産油国の政府にとっては重要な収入源となっている。そこで、大規模油田が発見された場合に、政府の行動がどのように変化するのかを検証した。

(3) 貿易自由化が生産性に与える影響

貿易自由化が経済に与える影響についてはこれまでも多くの議論がなされてきた。2000年代以降発展してきた企業の異質性を考慮したモデルでは、同一産業内に異なる生産性の企業が存在し、貿易自由化が進展すると生産性の低い企業から高い企業へと資源が移動することで経済全体の生産性が上昇することが示されている。企業の参入を明示的に考慮した場合に、貿易自由化が生産性にどのような影響を及ぼすのかについて検証した。

3. 研究の方法

(1) 政治体制が健康水準に与える影響

政治体制が健康水準(乳幼児死亡率、幼児死亡率、平均寿命)にどのような効果を及ぼすのかについて世界180カ国のデータを使用して検証した。図1は1960、1970、...、2010年の乳幼児死亡率の分布である。年々改善していることが見て取れるが、その分布は歪んでいることもわかる。そこで、平均的な効果だけではなく、乳幼児死亡率の水準による効果の違いを検証するため、分位点回帰を使用した。

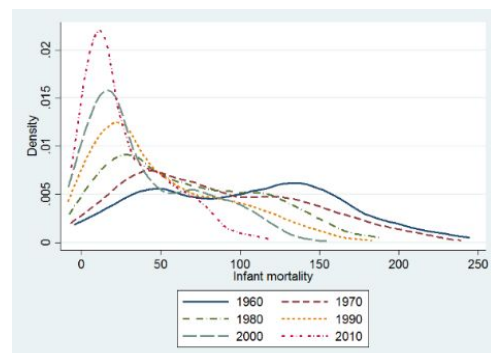


図1：乳幼児死亡率の分布

(2) 資源の呪いに関する研究

EITI の経済的効果に関する研究については、汚職が特に蔓延しており EITI の役割が期待されているアフリカ諸国に着目し、その効果を理論・実証の両面から検証した。政策評価の枠組みを考慮し、EITI に加盟した国を介入群、非加盟国を対照群とした上で、EITI の効果を測定した。

大規模油田の発見が政府の行動に与える効果に関する研究については、石油資源は産油国の政府にとっては重要な収入源となっているが、為政者がその収入をどのように使用するかは明らかではない。そこで、大規模油田が発見された場合に、政府の行動(具体的には政府支出の内訳)がどのように変化するかを世界約 150 カ国のデータを使用して検証した。

(3) 貿易自由化が生産性に与える影響

貿易自由化の効果を検証している先行研究は多いが、新規企業の参入を明示的に考慮しているものは必ずしも多くはない。そこで、理論分析では新規企業の参入を明示的に考慮した場合、貿易自由化が生産性にどのような効果を及ぼすのかについて検証した。解析的な分析だけではなく、数値的にもこの効果を確認した。

4. 研究成果

(1) 政治体制が健康水準に与える影響

実証分析の結果から、民主主義が成熟すると健康水準が改善し、その改善効果は健康水準の劣悪な国において大きいことが判明した。また、民主主義体制であれば議院内閣制と大統領制が健康水準に与える影響の差は小さい一方で、権威主義体制下では文民支配・軍政・王政ごとに健康水準に与える影響が大きく異なることも明らかとなった。研究成果は文献として国際的学術雑誌 *Economic Systems* に掲載された。

(2) 資源の呪いに関する研究

EITI の経済的効果に関する研究については、理論・実証分析から、ある国が EITI に参加することでその国の天然資源レントが増加することが明らかとなった。研究成果は文献として発表し、国際的学術雑誌に投稿中である。大規模油田の発見が政府の行動に与える効果に関する研究については、実証分析の結果から、大規模油田の発見は短期的には政府支出を増加させる効果はない一方で、中長期的には有意に増加させることが明らかとなった。また、その増加させる効果は民主主義体制の国ほど小さく、政府権力の抑制と均衡が機能している。研究成果は文献として発表し、国際的学術雑誌に投稿中である。

(3) 貿易自由化が生産性に与える影響

研究結果から、貿易自由化と生産性の関係は単調ではなく、貿易自由化が常に生産性の向上をもたらすとは限らないことを明らかにした。特に、貿易自由化の程度が低い場合に、貿易自由化により生産性が下落する。これは先行研究において貿易自由化が生産性を常に改善するとしている点とは異なり、政策的意義も大きい。研究成果は文献として発表し、国際的学術雑誌に投稿中である。

< 引用文献 >

Kishi, Keiichi, Keisuke Okada (2018) Trade Liberalization, Technology Diffusion, and Productivity. MPRA Paper No. 88597.

Okada, Keisuke (2018) Health and Political Regimes: Evidence from Quantile Regression. *Economic Systems* 42 (2), 307–319.

Okada, Keisuke, Sovannroeun Samreth (2019) Oil Bonanza and the Composition of Government Expenditure. MPRA Paper No. 96657.

Okada, Keisuke, Takayoshi Shinkuma (2018) Transparency and Natural Resource in sub-Saharan Africa. The Economic Society of Kansai University, Working Paper F-84.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Takuma Kunieda, Keisuke Okada, Yasuyuki Sawada, Akihisa Shibata	4. 巻 -
2. 論文標題 On the Two Catching-Up Mechanisms in Asian Development	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 mimeo	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Keisuke Okada, Sovannroeun Samreth	4. 巻 -
2. 論文標題 Oil Bonanza and the Composition of Government Expenditure	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 MPRA Paper No. 96657	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Keiichi Kishi, Keisuke Okada	4. 巻 -
2. 論文標題 Trade Liberalization, Technology Diffusion, and Productivity	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 MPRA Paper No. 88597	6. 最初と最後の頁 1-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Keisuke Okada	4. 巻 42 (2)
2. 論文標題 Health and Political Regimes: Evidence from Quantile Regression	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Economic Systems	6. 最初と最後の頁 307-319
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ecosys.2017.06.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keisuke Okada, Takayoshi Shinkuma	4. 巻 -
2. 論文標題 Transparency and Natural Resource in Sub-Saharan Africa	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Economic Society of Kansai University, Working Paper F-84	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keisuke Okada, Samreth Sovannroeun	4. 巻 24 (20)
2. 論文標題 Corruption and Natural Resource Rents: Evidence from Quantile Regression	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Applied Economics Letters	6. 最初と最後の頁 1490-1493
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13504851.2017.1287849	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takuma Kunieda, Keisuke Okada, Akihisa Shibata	4. 巻 22 (3)
2. 論文標題 A Simple Model of Contract Enforcement Institutions	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Pacific Economic Review	6. 最初と最後の頁 410-434
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1468-0106.12090	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Go Kotera, Keisuke Okada	4. 巻 137
2. 論文標題 How Does Democratization Affect the Composition of Government Expenditure?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Economic Behavior & Organization	6. 最初と最後の頁 145-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jebo.2017.03.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Keisuke Okada
2. 発表標題 Oil Bonanza and the Composition of Government Expenditure
3. 学会等名 琉球大学コンファレンス：マクロ経済動学の理論・実証分析（琉球大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keisuke Okada
2. 発表標題 Transparency and Natural Resource in Sub-Saharan Africa
3. 学会等名 応用マクロ経済学セミナー / マクロ経済学・経済システム研究会（京都大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keisuke Okada
2. 発表標題 Transparency and Natural Resource in Sub-Saharan Africa
3. 学会等名 第二回 関西学院大学-KIER シンポジウム「グローバル化と不確実性の経済分析」（関西学院大学）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考